

小金井の江戸時代と古文書

『小金井市史』から

小金井・貫井の二村が形成されたのは17世紀の前期、江戸時代となってからである。野川沿いでは田畑が開発され、次第に南北の台地に畑を開墾しながら村を広げていった。さらに18世紀前期からの享保改革の新田開発によって新田も形成されていく。村は、本百姓が屋敷・耕地を持ち、自立して生活や生業に従事していた。共同体として、領主の支配を受けながらも自治的な機能を持って村を運営した。年貢の負担は軽くなかったが、村が請負っていた。さらに人々の活動や視野が拡大し、産業も発達しながら江戸との結びつきも強まっていった。近世中後期には、災害や飢饉に見舞われ、幕府も対応しようと、しばしば改革などを行ったが、それ以上に人々や村が自治的機能を強化して行き、その中から近代への動きが生成してくる。残された文書から小金井の江戸時代を見てゆきたい。

講師 根岸茂夫先生（小金井市史編纂委員長・国学院大学客員教授）



【プロフィール】

国学院大学文学部史学科客員教授、博士（歴史学）
日本近世史（政治史・武家社会史・農村史・国家）専攻
著書『近世武家社会の形成と構造』『大名行列を解剖する—江戸の人材派遣』など

日時 令和3年7月5日（月）10時～11時半（開場9時半）

会場 宮地楽器ホール 小ホール 参加無料

対象 会員及び小金井市近郊の在住・在勤・在学の方

定員 80名予定（定員超過の場合は抽選、落選の方のみ連絡します）

後援 小金井市・小金井市教育委員会

申込先 会員：地区役員迄 会員でない方：嵯峨山（090-4078-5792）迄
締切り 6月25日（金） *史談会ホームページお問合せでも申込みます。氏名、町名、電話ご記入下さい。

7/2～5、宮地楽器ホールロビーにて「歴史見学写真展」を開催